

フォローアップを介して見えた生活課題へ対しての アプローチと薬局機能の拡充



○加藤 拓也 小原 雛 土井上 奈緒子 今田 裕也 飯田 奈穂子 奈良 優 田村 翔平
谷口 知明 門馬 結希 澤谷 亮平 土岐 香織 小林 順 齊藤 達也
株式会社ユニスマイル 新札幌中央薬局

【諸言】

当薬局は循環器内科門前ということもあり、生活習慣についての改善を必要とする患者が多く見受けられている。その為、服薬フォローアップと同時に生活習慣や栄養指導も含めたフォローアップと、様々なイベントを介して地域に根付いた薬局づくりを行った。

総合的なフォローアップや地域や医療機関との連携を介して見えた日常生活での課題に対して、薬剤師としての行ったアプローチとそれに伴う薬局機能の拡充について報告する。

【事例】

生活習慣が乱れることにより、生活習慣病を発症するリスクが高くなる(表1)。フォローアップ時に適切な指導を行い、発症を予防させ患者の生活の質の低下を防ぐことが大切である。

表1.生活習慣と関連する疾患

生活習慣	関連疾患等
食習慣	インスリン非依存糖尿病、肥満、高脂血症(家族性のものを除く)、高尿酸血症、循環器病(先天性のものを除く)、大腸がん(家族性のものを除く)、歯周病など
運動習慣	インスリン非依存糖尿病、肥満、高脂血症(家族性のものを除く)、高血圧症など
喫煙	肺扁平上皮がん、循環器病(先天性のものを除く)、慢性気管支炎、肺気腫、歯周病など
飲酒	アルコール性肝疾患など

出典:厚生労働省 e-ヘルスネット

- ・一次予防…生活習慣や生活環境の改善、健康教育により健康増進を図り、病気の発生を防ぐ

フォローアップにて、不十分と確認

- ・二次予防…病気や障害の重症化を予防する
- ・三次予防…既に発病している病気を管理し、社会復帰できる機能を回復させる

フォローアップにより一次予防が不十分であることが発覚した為、当薬局では薬学的知見以外にヘルスケア商品を活用したサポートを積極的に行うこととした。

◆適正体重と食生活改善による予防(一次予防)

- ・適正体重の維持

表2.「日本人の食事摂取基準(2020年版)」における目標とするBMIの範囲

年齢	目標とするBMI (kg/m ²)
18~49歳	18.5~24.9
50~64歳	20.0~24.9
65~74歳	21.5~24.9
75歳以上	21.5~24.9

- ・食事について

- 食品をバランス良くとる
- 塩分・糖分量を摂り過ぎない
- 1日3食規則正しく
- 多くの栄養素を過不足なくとる

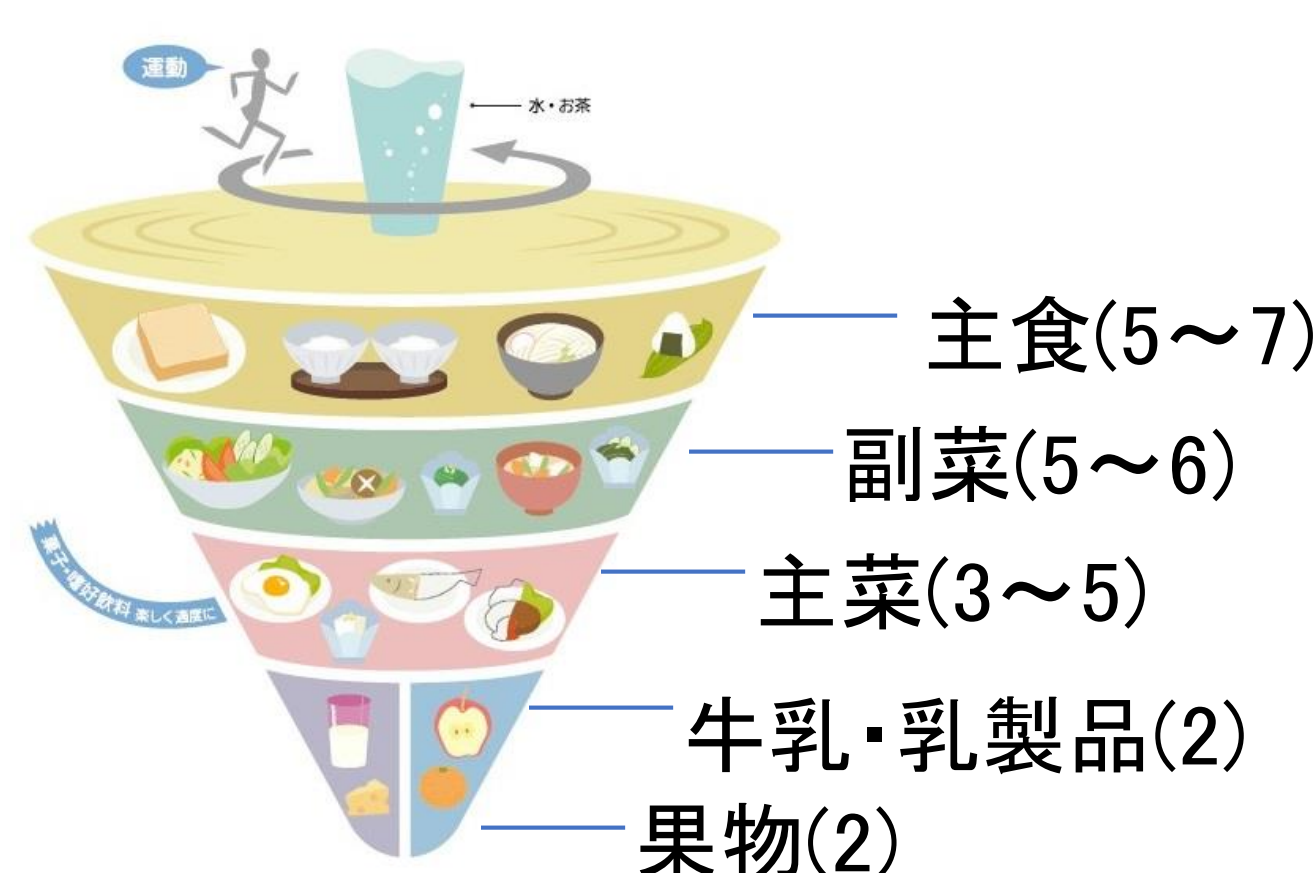


図1.食事バランスガイド

疾病の原因の排除、リスクの軽減が大切

◆ヘルスケア商品の充実化

R1年9月…56品目
医薬品⇒17品目
食品⇒4品目
化粧品・医療材料・
その他⇒35品目

約5倍

R5年7月…284品目
医薬品⇒80品目
食品⇒91品目
化粧品・医療材料・
その他⇒113品目

服薬指導や電話フォローアップ時に
生活指導・栄養指導・栄養補助食品の検討と販売



ヘルスケア商品売り場



販促チラシ

◆講演会、健康フェア、相談会の実施(R1年9月~)

- ・講演会…6回
- ・健康フェア…3回
- ・おくすり相談会
…薬局にて毎日開催

地域住民との連携

◆地域包括ケアシステムの構築への会議への参加(R1年9月~)

- ・地域ケア会議…13回
- ・退院時カンファレンス…7回
- ・サービス担当者会議…30回

医療機関との連携

【結果】

- ・一元的・継続的なフォローアップによる患者の健康状態の把握

地域住民の健康の維持、増進の手助け

- ・地域や医療機関との密な連携や情報共有

地域や患者に密着した地域の基幹薬局となる

- 2021年11月…**地域連携薬局** 北海道202薬局(R5年7月時点)
- 専門医療機関連携薬局** 北海道9薬局(R5年7月時点)
- 2023年4月…**健康サポート薬局** 北海道150薬局(R4年9月時点)

【考察】

・フォローアップやイベントに関わりをもち、生活改善のきっかけづくりを提供できた。今後も継続した提案の為には、生活の問題点にいち早く対応できる体制づくりも重要になると考える。

・今後の薬局は、服薬アドヒアランスの向上のみならず、フォローアップを介した生活状況の一元的・継続的な把握と管理、指導を行い、『かかりつけ薬剤師・薬局』として機能して、地域の住民が安心して相談できる身近な存在であるべきと考える。